

## 「水が海を覆っているように」



日本福音同盟 総主事  
日本キリスト合同教会  
東浦和教会協力牧師

品川謙一

「わたしの聖なる山においては、何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。水が海を覆っているように、大地は主を知る知識で満たされる」イザヤ書11章9節（新共同訳）

戦後70年を迎えたこの夏、WEA（世界福音同盟）総主事のエフライム・テンデロ師（フィリピン出身）と共に、広島と長崎を訪問し、平和祈念式典に出席する機会を与えられました。

70年前に投下された原爆による惨禍の証言を聴き、写真や資料を見てまわりながら、テンデロ師は「自分にとっての原爆は、日本軍による凄惨なフィリピン支配を終わらせたものだと母から聞かされていた。しかし今回、広島、長崎を訪れて、核兵器による被害がいかに悲惨で、非人道的なものかを知った。このようなことが二度と繰り返されてはならない。原爆投下を肯定していたことを赦して欲しい。」と語られました。それをきいてわたしは日本軍の侵略行為がフィリピンの人々に与えた苦しみと悲しみについて謝罪し、アジア

における和解と平和を前進させるために日本のキリスト者を主が用いてくださるよう祈ってほしいと伝え、共に祈りました。

4月に長崎で行われた北東アジア和解フォーラム（デューク大学和解センター主催）で、中韓米日のキリスト者で殉教と被爆の史跡と一緒にまわった時にも同様の和解の経験をしました。痛みと悲しみの歴史を辿りながら、互いの心の奥にあった思いを語り合い、涙の祈りを共にしました。これらの経験を通して教えられていることは、主にある平和(シャローム)は、このような個人レベルの出会いと関わりの中で、人格と人格のふれあいを通して前進していくということです。特に、共に悲しみ涙する (lament) プロセスを通ることがとても大切だと教えられています。「水が海を覆っているように、大地は主を知る知識で満たされる」とのシャローム宣言の「水」は、共に lamentした涙の海なのではないでしょうか。憎しみと恐れが蔓延しているこの世界で、主の真実な愛を知り、不真実な人間の過ちに涙する、その涙がこの大地を満たしていく、その日を待ち望みながら、今ここで、平和のためにできることをさせていただきたいと願います。

### TPCの活動目的

- (1)閉塞感のある日本のキリスト教会に元気を与える
- (2)超教派として活動する
- (3)毎日、礼拝を捧げ、祈り会を行う
- (4)伝道、学びなどのために貸室を提供する